

第4章 紀勢本線（新宮～白浜：営業キロ 95.2 km）

平成30年2月9日（金）早朝、次のようにカッシー館に投稿し、2月9日から3泊4日までの3泊4日の旅をする。平成30年2月9日（金）、本日から平成30年の歩きがスタート。同時に1万キロに向けキックオフ（只今現在残り647km）！！



名古屋から新宮までの関西本線・紀勢本線の区間は亀山経由で平成27年8月踏破済である。それ故、本日より3泊4日の予定でその続きとなる紀勢本線の新宮から白浜までの最大95.2kmに挑戦。地図を見る限り難所が多々あり、また天気の方も明日の10日は雨マーク。この区間のうち80km位歩けば大成功だろう。2月の宿泊付の旅は今回が初挑戦となる。色々不安が多いなか、どのようなメークドラマになるか楽しみでもある。どのような記事になるのやら・・・。

紀勢本線の新宮駅から白浜駅までの営業キロ95.2kmを次のプランで歩く。この結果、通算営業キロは9,448km（470日）、1万キロまで552kmとなった。

第1節 旅プラン

○平成30年2月9日（金） 晴れ

ひかり503号 新横浜（7:52） → 名古屋（9:17）

南紀3号 名古屋（10:01） → 新宮（13:37）

新宮～三輪崎～紀伊佐野～宇久井～那智～紀伊天満～紀伊勝浦（14.9km）

紀伊勝浦（17:37） → 串本（18:19）

ビジネスH串本駅前店泊 0735-62-6850



ビジネスホテル串本駅前店

○2月10日（土） 曇り/雨

串本（7:03）→紀伊勝浦（7:42）

紀伊勝浦～湯川～太地～下里～紀伊浦神～紀伊田原～古座～紀伊姫～串本（26.6km）

ビジネスH串本駅前店泊

○2月11日（日） 晴れ

串本（5:48）→周参見（6:28）

周参見（すさみ）～見老津（みろつ）～江住～和深～田子～田並～紀伊有田～串本（32.2km）

ビジネスH串本駅前店泊

○2月12日（月） 晴れ

串本（5:48）→周参見（6:28）

周参見～紀伊日置～椿～紀伊富田～白浜 (21.4 km)

くろしお 24 号 白浜(15:18)→新大阪 (17:50)

ひかり 532 号 新大阪 (18:16) → 新横浜 (20:51)

第2節 概要



新横浜駅



名古屋駅



南紀 3 号

今回特注の乗車券 (ラケット部分: 除く名古屋→新横浜)

3泊4日の紀勢本線旅の足跡は、丁度ラケットに似た経路とも言えよう。すなわち、電車を含めた進路が新横浜から名古屋までの往復が「柄の部分」で、名古屋～津～松阪～新宮～串本～白浜～和歌山～天王寺～新大阪～米原～名古屋が「編目の部分」となったからである。そういう意味では面白い旅でもあった。今回の旅を終え、白浜～和歌山までの紀勢本線と和歌山～天王寺までの阪和線を近い将来達成したいものだ。”鉄道つたい歩き”にてラケットが完成するからである。このような旅は3年前にも似ているが、あの時は新大阪から名古屋方面でなく岡山方面であったので・・・。

今回の旅に登場する駅舎数は新宮駅と白浜駅を含め 26 駅舎。お蔭様で天や神のご加護を得て、当初予定の新宮から白浜までの営業キロ 95.2 km を有言実行できたことに加え、26

駅舎のすべてに立ち寄りに成功した。それ故、達成感はひとしおであった。このうち、先ず今回の歩きでの要の駅舎を5つご紹介したい。その他の駅舎の顔はこれから順次に・・・。



新宮駅

紀伊勝浦駅



串本駅

周参見 (周参見) 駅



白浜駅

くろしお 24 号

3. 感動のあまり SMS で発信した結果、次のような回答を得る。

2月12日、1万キロに向けての旅の第1歩である新宮から白浜までの踏破の感動をSMSで発信したところ、沢山の方から激励を頂き、感謝感激。言葉なし。そのうちの幾つかをご紹介します。

(^^♪・・・・♪・・・・♪・・・・♪・・・・)

○2月9日からH30年始動ですか。残り552km。平成中にあと35日つたい歩きされるとして、1日あたり16km弱。結構大変ですが、多少ギアを上げれば十分達成圏内ですね。頑張ってください。陰ながら応援します。フレー！フレー！カッシー！

○お疲れさまです。素晴らしいですね。カッシー館楽しみにしています。

○こんにちは。ご無沙汰しております。また、HPでご無沙汰している間に、偉業達成へと着々と歩み続けている記録を拝見しました。1万キロ、陰ながら応援させていただきます。

○後500km程ですか、東京から大阪辺りまでの距離ですね。夏場は大変でしょうから、体に気を付けて、無理せず1万kmを目指して下さい。

○ご活躍お見事です。目標達成を確信しています。頑張ってください。

○お早うございます。ご連絡ありがとうございます。新しい記録の達成をお祈りします。

○おはよう==ございます=本年も宜しくお願いします！凄い=ですね。また、見ます！

○おはようございます。了解です。楽しみですね。頑張ってください。

○またまたやりましたね☆新幹線での祝杯はさぞかし美味しいでしょう！！ちよっとうらやましい△△△

○いいですね。紀勢本線なら雪は大丈夫ですね。お疲れさま！

○樫原君へらいことに挑戦しているのですね気をつけて頑張ってください。

○はーい=承知致しました。あと少し？です。頑張ってください。

○投稿、拝見しました。元号が替わるまでの一万キロの達成、お祈りしています。

○和歌山ですか。寒さにお気をつけください。

- お元気でご活躍の様子なによりです。カッシー館にはいつ頃投稿されますか。
- お元気で頑張っているようで嬉しく思います。あと 15 カ月弱ですが健康に留意して悲願達成して下さい。
- 安全第一、健康第一で！
- すごいですね。休みの日だけで達成するのは難しいかも知れないですね。無理せず頑張して下さい。
- 壮大なチャレンジお見事。日生はアクチュアリーの本社長が誕生するとか。
- こんばんは。プログ拝見しました。元気そうで何よりです。早期目標達成を祈ります。頑張して下さい。
- 凄いですね。大台までもう少しとのこと。寒さに負けずに歩いて下さい。
- 寒い中達成ですね。お疲れ様でした。小生もいつか熊野古道中辺路で山側ルートを歩きたいと思っています。達成後のお酒はさぞ美味しいでしょうね。1 万 Km に向け頑張して下さい。
- お疲れ様。やりましたね！映画教室？ゴッホの作品の中で自伝的作品。彫刻家ロダンの映画 2 作品観ていました。朝から風花の舞う寒い一日です。乾杯！
- カラダに機を付けて良い旅をお楽しみ下さい。

第 3 節 1 日目:2 月 9 日 (金) : 新宮～紀伊勝浦 晴れ

昨日(2018 年 2 月 8 日 (木))はみどり生命経営会議で数眠不足であったが、2 時過ぎに目が覚め、カッシー館に 3 泊 4 日の予定で歩く旨を前述の通りカッシー館に投稿する。そして、仮眠して 5 時頃起床し、旅支度をする。家内に中央林間まで送ってもらう。東急中央林間駅 6 時 30 分発の電車で、長津田経由で新横浜に向かう。少し予定より早く出たため、新横浜には 7 時 30 分頃到着。

新幹線の移動中は寝不足のため仮眠する。名古屋駅で 44 分の待ち時間がある。味噌カツ弁当を購入し、南紀 3 号に乗る。数年前に歩いた懐かしい場面や苦労した区間が多々登場する。12 時 50 分、新鹿駅で特急電車の離合がある。川を渡ると新宮駅が登場する。亀山から

新宮までの JR 東海の紀勢本線は非電化の線路、新宮から和歌山までの紀勢本線が JR 西日本で電化の線路。そういう意味では、新宮からの JR 西日本の鉄道つたい歩きの方が、“鉄道案内人”のひとつである電柱が見える分楽に感じた。

平成 30 年 2 月 9 日（金）晴れ、初日の新宮から紀伊勝浦まで歩き（14.9 km）、登場した駅舎の顔は次の通り。

新宮（13 時 43 分）～三輪崎（14 時 55 分）～紀伊佐野（15 時 20 分）
～宇久井（16 時 2 分）～那智（17 時 3 分）～紀伊天満（17 時 17 分）
～紀伊勝浦（17 時 30 分）



紀勢本線の車中より 新宮駅



高森バス停（熊野交通） 三輪崎駅

この区間は 14.9 km あり、17 時 37 分までに踏破を要する必要があった。この時間を過ぎると、次の串本に向かう各駅停車は 19 時 38 分までないからである。それ故、時間との戦いとなった。無駄な歩きは許されなかった。また、分かりやすい区間などは小走りしながらの歩きを余儀なくされた。唯一の救いは、18 時 10 分発のくろしお 34 号の串本方面に向かう特急があった。このダイヤが保険の機能を醸し出してくれ、少しは精神的な重圧から解放してくれた。



紀伊佐野駅

木ノ川踏切を横切り方向を誤る

新宮駅から三輪崎駅までは JR 線と今回のシリーズ歩く国道 42 号とはかなり乖離し、山を越えるため大回りの歩きとなった。三輪崎駅から紀伊勝浦駅までは、JR 線と国道 42 号線がほぼ並走していたので助かった。但し、紀伊佐野駅で地図を無視した歩きとなり、引き返す場面も生じたが……。しかし、小走りが功を奏し、紀伊勝浦駅には 17 時半頃到着しホッとする。

日本海側は大雪情報の中、紀勢本線界限はウォーキング日和に恵まれ、歩いてから 30 分経過し、ジャケットの下のセーターを脱ぐ位の状況となった。色んな面で、天や神のご加護を強く感じる一日であった。

初日の歩きで印象に残る場面は次の通り。

13 時 41 分、新宮駅では懐かしい犬の干支（3 カ所）があった。数年前の干支は……であった。懐かしい新宮駅前のデジカメに収めて、三輪崎駅に向かう。13 時 44 分、踏切を横切り、鉄道の右側を歩く。13 時 50 分、熊野新聞社前を通過。新宮市内の街並みを歩く。14 時 3 分、これからの鉄道つたい歩きで道筋となる国道 42 号線に出る。14 時 8 分、ジャケットの下のセーターを脱ぐ。14 時 21 分、浜松までの距離が 268 km とある地点を通過する。このシリーズ、この浜松までの距離表示がポイントとなる。14 時 26 分、広角という交差点で道路が分岐する。海岸線に繋がる道路に方向転換する。14 時 40 分、高森というバス停（熊野交通）前を通過。14 時 44 分、田辺 114 km、那智勝浦 11 km 地点で高校生のグループと接する。坂を下る。14 時 48 分、JR 三輪崎駅への看板を見つける。14 時 51 分、三輪崎踏切を横切り、鉄道の左側を歩く。14 時 55 分、本日最初の三輪崎駅に到着。以下、住宅街を歩いて紀伊佐野駅には 15 時 20 分到着。この駅で木の川踏切を横切ったため、とんでもない方向に向かう恐れがあると察知し、引き返す。10 分位ロスする。再度木の川踏切を横切り、15 時 36 分、赤い鳥居前を通過。



赤い鳥居



王子橋

15時40分、国道42号線に戻る。15時45分、熊野交通の王子橋前バス停を通過。15時51分、新宮市から那須勝浦町に入る。15時57分、熊野交通の出見世バス停前を通過。16時2分、宇久井駅に到着。上り、下りの電車がやって来る。16時13分、JR線を跨ぎ、鉄道の右側を歩く。16時17分、283mある小狗（こぐし）トンネル（万歩計で258歩）を通過。16時23分、このシリーズ初めて海岸線に出る。16時28分、建石前バス停前を通過。



宇久井駅



小狗トンネル



那智駅



紀伊天満駅

16時31分、170mある大狗トンネル通過（242歩）。16時45分、夕方の海岸線が前方に広がる。17時7分、道の駅と同じエリアに那智駅（17時3分）ある。ここから小走りが増大する。何としても17時37分の電車に間に合わせたいためである。紀伊天満駅には17時17分、そして目標の紀伊勝浦駅には17時30分到着。電車の窓からは真っ暗で外の景色は全く見えず。紀伊田辺行きの電車には、高校生などでそれなりに乗客がいた。串本駅には18時19分到着。ホテルは駅前にあった。ホテル（405号室）到着時の万歩計は23,947歩だった。ホテルの紹介で味処“香蔵”で夕食。本日の当初の予定がクリアでき、充実した一日を過ごすことができる。



紀伊勝浦駅への路 紀伊勝浦駅

第4節 二日目：2月10日（土）：紀伊勝浦～串本 曇り／雨

平成30年2月10日（土）曇り/雨、二日目の紀伊勝浦から串本までの歩き（26.6km）、登場した駅舎の顔は次の通り。

紀伊勝浦（8時52分）～湯川（9時49分）～太地（10時38分）～下里（11時17分）～
紀伊浦神（11時29分）～紀伊田原（13時39分）～古座（15時40分）～
紀伊姫（16時37分）～串本（17時25分）



串本駅

この区間は26.6kmあり、昨日と異なり、コバルトブルーの海を見ながらの歩きとなった。湯川駅への途中、吉野熊野国立公園の観光スポットにも立ち寄ることができる。この区間を時刻表で調べたところ、太地駅と古座駅は特急”くろしお”が停車する駅。本日登場する町名は、那智勝浦町、太地町、串本町。太地町が那須勝浦町に囲まれた中であつた。このため、太地駅を過ぎると再度那須勝浦町が登場してきた。太地駅前の”鯨とともに日本遺産”は印象的であつた。

昨日と異なり、リュックもジョギング用の身軽な軽装に加え、時間に追われない道中であつたので、今回の歩きシリーズの中では一番歩きやすかつたコースであつたかも知れない。しかも天気予報では雨マークであつたのにも関わらず、紀伊田原駅（紀伊勝浦から13.9km地点）までは曇り空であつたので助かつた。しかし、紀伊田原駅を過ぎた辺りからポツリの小粒の雨を感じ、次第に大粒の雨となり集中力を欠く歩きとなつた。それ故、古座駅までの道中は随分長かつた。折りたたみ傘であつたこともあり、ジャケットの内ポケットにある財布も多少湿気を感じる始末であつた。

雨の中集中力を欠きながらも、串本町の観光スポットのひとつである橋杭岩に立ち寄ることができ、それなりの収穫を感じる一日であつた。同時に、本日も九カ条からなる「こだわり鉄道つたい歩き」に登場する”必殺仕置人の心境で歩く”があればこそ、できたと強く感じる一日でもあつた。

二日目の歩きで印象に残る場面は次の通り。

当初の1時間遅らし、ホテルでの朝食を摂ってから本日の歩きに挑戦する。5時過ぎに起床。7時14分、ホテルの窓から朝日が見える。ホテル7時35分出る。串本駅前で朝の顔をデジカメに収める。駅前の地図によると、ホテルから南に行った先に本州最南端にある潮岬があつた。くしもと大橋も表示があつた。また、串本駅舎の前には、“本州最南端の串本駅”と記した標識があつた。新宮への各駅停車のダイヤは朝夕が1時間に1本、日中は2時に1本。その間に特急電車“くろしお”があつた。昨夜、ホテルの支配人とお話しした内容が理解できた。このダイヤでも紀伊田辺方面に比べれば倍位多く、通学は新宮方面には向かうが、紀伊田辺の方にはないということが理解できた。すなわち、串本は新宮のエリアであることを。



串本駅

7時59分、上下の電車が入線して来る。2両編成のワンマンカーであった。8時46分、紀伊勝浦駅に到着、駅舎内にある通路には紀伊勝浦境界の名所旧跡の写真が展示されていた。紀伊勝浦駅には、“太陽と山/海そして信仰の地”とあった。紀伊勝浦駅前には、アーケードもあった。8時58分、湯川駅に向けてスタート。



紀伊勝浦駅

8時58分、鉄道下を潜り、鉄道の右側となる、9時3分、甫子浦交差点を通過。串本29km、田辺104kmの道路標識があった。湯川駅への路は、海岸線を大きく迂回に山道となる。9時11分、350mある湯川トンネル(463歩)前を。このトンネルの左側には歩道のトンネルがあった。トンネルを出ると、9時21分、浜松まで282kmの標識があった。9時25分、落合博満野球記念館の標識(3.2km先)があった。9時31分、湯川温泉へのバス乗り場がある。この交差点で真っ直ぐ進むべきか、左折すべきか迷う。少し先に“ゆかし湯”(吉野熊野国立公園)があった。この近郊の地図に湯川駅への道筋が記されており安堵する。暫くゆかし湯に沿って歩く。9時46分、湯川川河川公園標識前通過。本日最初の湯川駅には9時49分到着。海岸に沿ってホームがあった。9時54分、湯川駅発車の電車をデジカメに収める。



ゆかし湯

湯川駅

9時56分、2km先に道の駅“たいじ”と記した標識前を通過。9時58分、97mある湯の浦トンネルの入口前に到達。10時3分、50mある大浦トンネル入口前、そして10時7分、142mある鯨浦トンネルを。10時15分、那須勝浦町から太地町となる。10時14分、浜松か

ら 285 km地点に到達。10時17分、JR線を跨ぎ、鉄道の左側となる。10時18分、“くじらの町”太地町の看板あり。海岸線を歩く。10時28分、“かみなり情報”のアナウンスがあり。10時29分、道の駅前を通過。10時37分、特急停車駅の太地駅に到着。



湯川駅 太地駅への路



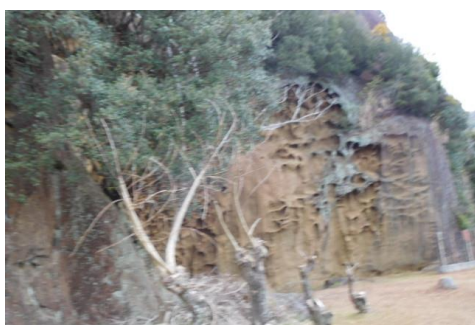
鯨の街 太地駅

駅前には“鯨とともに生きる日本遺産”の看板があり。駅前で高架された線路があった。線路下を潜り、鉄道の右側となる。10時43分、再び那智勝浦町となる。10時47分、私に向かって吠える犬をデジカメに収める。10時50分、バックミラーで私の画像を撮影する。10時56分、那智勝浦町市屋を。11時、浜松から288 km地点（下里）を通過。ここから民家が多くなる。11時3分、下里神社前を通過。11時12分、色川街道踏切を横切り、鉄道の左側となる。200m位戻った先に下里駅（11時17分）があった。



下里駅への路 下里駅

この駅は偶然にも鉢合わせとなった年配の女性に道筋を教えてもらって、迷うことなく踏破できた。11時22分、再度色川街道路を横切り鉄道の右側を歩く。そして国道に11時26分戻る。11時26分、上り特急電車が鉄橋を経由して新宮方面に向かう場面をデジカメに収める。11時35分、下里大橋（国色川）を渡る。残念ながら万歩計での測定を忘れる。その橋を渡った交差点が八尺鏡野（やたがの）とあった。11時39分、322mある玉の浦トンネル入口前に到達。11時48分、那智勝浦長粉白という地名を通過。風光明媚な視界が広がる。海岸線に沿って鉄道が続く。11時50分、浜松から290km地点通過。11時57分、田辺94km、串本19m道路標識があった。12時5分、鉄道下を潜り、鉄道の左側となる。左手は海岸線となる。12時9分、右手に蜂の巣のような岩肌が登場。12時9分、港には沢山の小船が停まっていた。11時29分、紀伊浦神駅に到着。



紀伊浦神駅への路

紀伊浦神駅



紀伊田原駅

12時35分、近大水産研究所があった。12時46分、頭上を上り特急電車が通過して行く、線路の右側となる。12時54分、那智勝浦町から串本町に入る。12時55分、熊野古道清水峠入口前を通過。12時58分、鉄道が道路下にある。鉄道の左側となる。13時2分、串本町田原交差点を通過。気温11°Cの表示あり。13時8分、新宮行の各駅停車と対面する。13

時 13 分、浜松から 295 km 地点通過。13 時 22 分、45 歩の堂道橋を渡る。13 時 39 分、紀伊田原駅に到着。丁度下り電車がやって来る。13 時 45 分、熊野古道の案内板を見つける。その先に田原郵便局があった、13 時 54 分、風光明媚な海岸線が視界に入る。13 時 59 分、道路下に鉄道がある。鉄道の右側となる。すなわち、海岸、鉄道、道路となる。14 時 5 分、浜松から 298 km 地点に到達。14 時 17 分、道路標識で田辺 86 km、白浜 82m 地点通過。



浜松から 300 km 地点

古座神社



古座駅への路

古座駅

14 時 20 分、JR 線が道路下にある。右側を歩く。14 時 32 分、浜松から 300 km 地点に到達。14 時 41 分、ポツリと水滴を感じる。15 時 1 分、国道から外れた幹線道路を歩く、本格的な雨模様となる。港には沢山の小船があった。15 時 12 分、古座神社前を通過。15 時 25 分、古座小学校前を通過。その先で年配の女性に、「古座駅は近いですか」と尋ねる。「まだ 20 分位かかるよ。橋を渡った先にあるよ」と教えて頂く。しかし、悪天候で集中力を欠き、少し迷子になる。運よく、ドライバの方に尋ね、5 分位の遠回り回避できる。小さい折りたたみ傘のため、衣服がぬれ続ける。紀陽銀行の交差点に戻り、502 歩ある古座川を渡る。青い橋であった。橋を渡ると古座駅（15 時 40 分）があった。駅前には結構な街並みが広がっていた。三男坊の妻と同じ名前の“愛”といううなぎ屋があった。雨が強くなる。15 時 48 分、国道と合流・15 時 50 分、道路標識で田辺 81 km、白浜 78 km 地点を通過。15 時 53 分、岩の上に沢山の水鳥がいた。15 時 55 分、重畳山登山口前通過。16 時 9 分、そろそろ紀伊姫駅がらむと思ひ、国道から外れた路を歩く。16 時 35 分、紀伊姫駅に到着。



紀伊姫駅への路

紀伊姫駅

6時53分、国道に沿って小岩が多い海岸線が続く。16時56分、風光明媚な橋杭岩前を通過。この名所旧跡には”道の駅くしもと橋杭岩”とあった。17時25分、やっとのことで、串本駅に到着できる。そして、ずぶ濡れ状態でホテルに到着。一風呂浴びて昨日の香蔵に向かう。ホテルに駆け込むときに比べ、さらに雨足が強くなっていた、本日の営業キロは26,6km、万歩計は52,727歩であった。天候状態が悪い中、目標の営業キロが踏破でき、天や神に感謝の気持ちで一杯となる。



橋杭岩

串本駅



三日三晩お世話になった”香蔵”にて(2月10日撮影)

第5節 三日目：2月11日（日）：周参見～串本 晴れ

平成30年2月11日（日）建国記念日晴れ、三日目の周参見から串本までの歩き（32.2 km）、登場した駅舎の顔は次の通り。なお、順路は串本から周参見（すさみ）に向かう道中であるが、ダイヤ、宿泊の関係などでこのような行程となった。

周参見（6時40分）～見老津（みろつ：9時28分）～江住（10時23分）～和深（12時36分）～田子（13時15分）～田並（14時36分）～紀伊有田（15時20分）～串本（17時48分）

この区間は32.2 kmあり、今回の歩きシリーズの中では最も長い営業キロへの挑戦となった。この時期はまだまだ日没が早いので、30 km超の歩きには慎重を期す必要があった。それ故、当初予定の串本発7時21分のくろしお10号から93分早い5時48分（始発）の各駅停車に急遽切り替える。始発電車と特急電車の間にはダイヤは全くなし。また、ホテルでの朝食を予定していたがそれも断念。しかし、結果的には大成功。日没とほぼ同時に串本駅に17時48分到着できる。しかも、高校先輩推奨の串本海中公園に立ち寄ることができた。正に”早起きは三文の得”を痛感する一日であった。



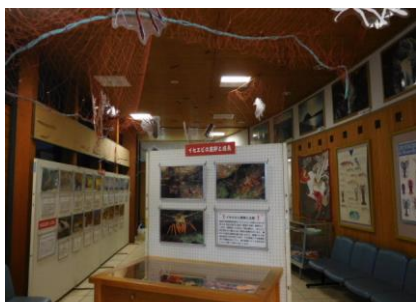
串本駅 紀伊田辺行き（誰もいない車両）

それにしてもこの時期、電車での移動時間である5時48分～6時28分の時間帯、辺りは真っ暗、車窓から沿線の風景は全く見えず。それ故、本日のコースの道筋を観察できず。やっと周参見駅手前で海岸線の風景が朧気に見えてくる。しかも、周参見駅を出発した瞬間、太平洋からの強風があり肌寒し。手袋とマスクを着用し、今回の歩きシリーズで最も長い営業キロ9 km先の見老津駅に向けスタート。平成27年6月歩いた宗谷本線の佐久から箴島（おさしま）までの18 kmには及ばないが……。この歩き実績があるので、海岸線に沿った山道もかなりのエネルギーを消耗したが、自信をもって臨むことができた。約3時間要して9時28分やっと見老津駅に到着できる。

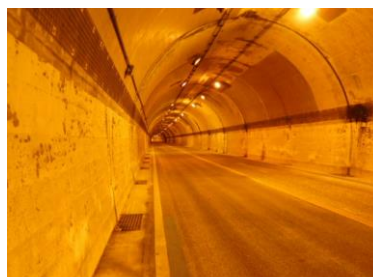
今回の紀勢本線は、概ね国道42号線の道筋に沿って駅舎があるのに加え、駅前の交差点にはJR〇〇駅と掲示板があり大いに助かった。それ故、見老津駅から串本駅までもコバルトブルーの風光明媚な海岸線を見ながら楽しむことができた。今回の旅行で初めて江住と和深の中間点辺り（里野海水浴場）で昼食をとれる機会を得る。夜はこのシリーズ3連荘で通った”香蔵”で美味しい郷土料理と地酒を頂く。この店はホテルから推奨して頂いた食事処だけあり、三日三晩満席の状態であった。マスターに忙しい合間を縫って本日の成果などを語らせて頂く。そして、明日の難関突破のためのエネルギー補充のために……。本日も充実した一日であった。

詳細な立ち寄り記録は次の通り。

3時過ぎ起床。ドクターGの番組を見ながら準備する。ホテルを5時25分頃出る。早朝の串本駅をデジカメに収める。5時半頃、電車（2両編成のワンマンカー）が入線して来る。始発の電車は、私の他に1名乗客がいた。辺りは真っ暗。江住駅で2名、見老津駅で2名乗車して来る。周参見駅手前（6時20分頃）で少し海岸線が見えて来る。6時28分、周参見駅に到着。駅舎に面した“いせえび博物館”に立ち寄った後、見老津駅に向かって進行。



周参見駅



見老津駅への路

辺りは少しではあるが、明るくなりつつあった。太平洋からの風冷たし。それ故、マスク、手袋を着用しての歩きとなる。6時45分、赤い鳥居の前通過。その先に、すさみ海水浴場前の看板(6時46分)があった。本日も国道42号線を歩く。6時51分、海岸線に沿って歩く。7時6分、442mある白島トンネル前にやって来る。早朝のため、トンネル内では殆ど車との出会いはなし。7時12分、崖よけのトンネルを通過。7時23分、世界遺産の長井坂トンネル前に。7時31分、浜松から344km地点を通過。



世界遺産長井坂

浜松から 344 km地点

7時33分、海岸線で二人の釣り人と対面。7時50分、新宮77km、串本33kmを通過。海岸線から山道となり、海岸線からの冷たい風が遮断される。8時、道の駅“イノプータランドすさみ”まで2kmの看板前を通過。山道続く。8時12分、海岸線が見えて来る。8時13分、海岸線に沿って、太陽電気パネルがあった。8時25分、橋杭岩33km、潮岬36kmと表示した標識前を通過。8時28分、道の駅前を通過。この道の駅はトイレ休憩程度の休憩場であったが、すさみ町総合情報センター案内所では童話の世界に登場するような王様の姿があり、多少なりとも疲れつつある心身を癒してくれた。



串本まで 33 km地点

すなみ町総合情報センター案内所

8時37分、高浜海岸千畳敷と記した看板前を通過。8時40分、浜松から340km地点通過。8時42分、県畜産試験場前を通過。8時45分、488mmある黒島トンネル入口前に到達。ト

ンネルを出ると、陸の黒島、沖の黒島と記した看板があった。風光明媚な海岸線が広がる。8時59分、浜松から339km地点通過（見老津）。1kmに19分要す。9時2分、恋人岬を通過。9時3分、黒島バス停前を通過。9時13分、新宮72km、串本28kmと記した道路標識前通過。9時18分、いつの間にかJR線が右手側にあった。9時26分、JR線を横切る。9時28分、やっと本日最初の見老津駅に到達。



風光明媚な海岸線



見老津駅

9時40分、小船がある海岸線を通過。9時55分、すさみ町江須の川通過。9時57分、道の駅で見た童話の国への交差点通過。10時7分、左手に鉄道の陸橋がある。10時21分、江住駅への看板発見。10時23分、江住駅に到着。



江住駅

マルカンラーメン

10時36分、鉄道を跨ぎ JR 線の左側となる。10時50分、セーターを脱ぐ。11時過ぎ、マルカンラーメンに入る。お薦めのチャーハン付き醤油ラーメンを注文。私が最初の客であったが、10分位すると7～8名の客がやって来る。このシリーズ初めてのランチ休憩となる。30分位休憩後、和深駅に向けてスタート。



風光明媚な海岸線

和深駅

近くには里野海水浴場があった。夏場は先程の店は繁昌するのであろう。11時40分、浜松から330km（新宮まで64km）地点通過。近くに熊野古道参詣道の一つである大辺路（おおへち）の案内看板があった。この案内板は随所に登場する。11時54分、すさみ町から串本町に入る。その先で左手に JR 線がある。風光明媚な海岸線が続く。12時8分、頭上に JR 線がある。鉄道を右手にする。12時14分、熊谷という地名で手袋のロストに気付く。それにしても物をよく落とすものだ。12時22分、道路標識で和深という地名が登場する。12時24分、JR 和深駅の看板発見。少し道路を下った先に和深駅（12時26分）があった。駅のホームから湯川駅と同様、海が見えた。12時33分、新宮まで61km地点に到達。12時36分、270mある和深トンネル入口前に到達。13時2分、安指で田子駅まで800mの案内板を見つける。13時10分、JR 線を左手にする。13時15分、田子駅に到着。



田子駅への案内板 田子駅

13時17分、海岸線が続く。13時31分、73mある富山トンネルを通過。13時41分、大辺路の看板発見。13時56分、前方の山の頂上に城のような光景がある。正体は木々が演じた光景であった。14時1分、串本町江田の地名を通過。14時16分、のう前バス停通過。14時19分、頻繁に登場する那智黒あめの看板前を通過。体に追い風を感じる。14時36分、田並駅に到着。



那智黒の看板 田並駅

14時45分、276mある田並トンネル前に到達。14時59分、海岸線が広がる。15時2分、71歩ある有田橋を渡る。交差点に有田駅への案内板を発見。300m歩いても発見できないので、再度戻る。小学生の児童に、戻った路の先に駅があると教えてもらう。10分位ロストする。15時18分、有田中学校がある。その先に紀伊有田駅（15時20分）があった。



紀伊有田駅の標識あり



紀伊有田駅

このシリーズ初めて右往左往して到達した駅であった。下り特急電車が通過する場面であった。昨日と異なり、周参見から岸本間は殆ど電車に対面しなかったため、強く印象に残った。駅舎の中もデジカメに収める。15時37分、272mある逢坂山トンネル前に到達。この境界は海拔19mとあった。15時47分、串本海中公園を散策。水族館の入場料に1500円要す。入場券の裏面には4つのゾーンの表示があった。

- A ゾーン：串本の海
- B ゾーン：潮だまりのいきもの
マリンアートギャラリー
ウミガメ広場
- C ゾーン：水中トンネル
- D ゾーン：海中展望塔
海中観光船ステラマリス

水族館の中の模様をデジカメに収める。この公園で30分位過ごす。14時20分、この公園を後にする。16時27分、62mある高浜トンネルを通過。16時51分、128歩ある新西木橋（二色川）を渡る。16時58分、熊野古道を歩く像前を通過。17時、JR線にぶつかり鉄道を左手にしてつたい歩きする。ここから串本駅は遠し。17時10分、73歩あるしおしま橋を渡る。17時25分、海岸線に沈みつつある西日の光景を捉える。17時34分、国道から外れた路を歩く。17時43分、串本駅前ビジネスホテルの本館前を通過。串本港が辺りにあった。17時48分、串本駅に到着。ホテルには17時56分到着。今日も最後の香蔵で本日の疲れを癒す。本日の営業キロは32.2km、万歩計は68,646歩であった。充実した一日を過ごす。



串本海中公園



串本駅への路

第6節 4日目：2月12日（月）：周参見～白浜 晴れ

平成30年2月12日（月）晴れ、最終日の周参見から白浜までの歩き（21.4km）、登場した駅舎の顔は次の通り。本日は海岸線の素晴らしい景観のためかアップダウンが多く、実に10カ所と今回シリーズでは最大のトンネルを通過する場面（昨日は6カ所）に遭遇する。



串本駅

周参見（6時41分）～紀伊日置（8時30分）～椿（11時25分）

～紀伊富田（13時25分）～白浜（14時12分）

この区間は21.4kmと見た目は短いですが、紀伊日置駅と椿駅が国道42号線からそれぞれ2km、1.5kmと離れていた。また、通り抜けられないので元の位置に戻る行程を余儀なくされた。それ故、少なくともの営業キロに7kmは加算して臨む必要があった。帰りの電車は白浜発15時18分の”くろしお24号”のため、安全を期して14時半までには白浜駅に到着したかった。このため、本日も昨日と同様93分早める串本駅を5時48分発の各駅停車とする。これでも不安であった。山道への難所（一例として、くねくねした道のりのため距離が読めない）を多々感じたからである。時間との戦いが初日の歩きと同様課せられた。もしかすると、4日間で一番の難所であろう。

周参見駅から40分位歩いて、道路標識で「白浜32km、紀伊田辺35km」の表示にはビックリ。時刻表の営業キロに比べて10kmも長いからだ。頭の中が真っ白となる。この表示を見て以来小走りの回数が増大する。最終的な判断は、紀伊日置駅での時刻表を見てからの

判断とする。本日3番目の日置トンネル(1,184m)を通過すると、日置川を跨る日置大橋がある。日置川沿いを30分位歩いた先に紀伊日置駅(8時30分)があり。この駅でくろしお24号に間に合うためのダイヤは紀伊日置駅発13時33分とあった。周参見から紀伊日置までの営業キロは7.2km。この区間約2時間の所要時間で踏破できたので「何とか目的の時間には到達できる」と判断を下す。少しではあるが、朝一番の掲示板からのショックが和らぐ。

しかし、次の樫駅への道のりが随分長かった。歩いて歩いて国道から樫駅に入る交差点に到着できず。また、この交差点からの道のりが地図に比べ長くビックリする。小走りの連続でやっと11時25分樫駅に到着。幾ら歩いていても鉄道が見えないので誤った路筋を歩いているのではないかと何度も疑心暗鬼となる。紀伊日置から樫までの営業キロは6.1km。引き返しの時間を含め、約3時間要す。ここから次の紀伊富田駅までは4.8km、白浜まで8.1km。何とか頑張れば、白浜駅に14時過ぎには到着できるのではないかと最終判断を下す。

以下、私の思惑が功を奏し、紀伊富田駅には13時25分到着、そして目標の白浜駅には14時12分ゴール。駅前の店で遅い昼食を済ませ、予定通りくろしお24号に乗り自宅に向かう。本日は、線路と国道が並走していない箇所が随所に登場し、また時間との戦いもあり精神的にも肉体的にも疲れたが、これから人生を歩む上で大いに勉強となった。有言実行の大切さ、最後まで諦めない精神力などなど。 <まとめに続く>

詳細な立ち寄り記録は次の通り。

3時半頃起床。本日の準備をし、5時半頃ホテルをチェックアウト。ホテル界隈の風景をデジカメに収めて串本駅に。駅員さんに本州最南端の町“串本町(潮岬)”の画像前で記念写真を撮って貰い、昨日と同様始発の電車(5時48分)に乗車する。本日は江住まで単独であった。昨日と同様、江住駅で2名、見老津駅で2名乗車して来る。6時41分、紀伊日置駅に向けてスタート。



周参見駅

周参見大橋(強風の到来を受ける)

6時47分、万歩計で263歩ある周参見大橋を渡る。強風で帽子が飛ばれそうになる。しかも寒し。6時53分、本日の安全を祈願しながら天満天神宮前を通過。6時55分、周参見鯉の看板前通過。7時3分、179mある小泊トンネル前（No1）に到達、7時15分、白浜32km、田辺35kmと記された想定外の道路標識を見て驚くと同時に頭の中が真っ白になる。



天満天神宮 道路標識（白浜まで32kmのショックの表示）



日置トンネル 日置川

7時18分、918mある朝来トンネル前（No2）を。7時39分、浜松から351km地点を通過。7時41分、1184mある日置トンネル前（No3）を通過。トンネルを通過すると日置大橋（221歩：日置川）がある。8時1分、国道から右折し、日置川に沿って歩く。8時17分、高速道路下を潜る。8時21分、右手に日置川に跨る橋があった。8時25分、JR線下を潜り鉄道の右側となる。JR線に沿って歩く。8時30分、本日最初の紀伊日置駅に到着する。駅前には大好き日置川の看板がある。駅舎で紀伊勝浦行きダイヤ（13時31分）をメモする。8時37分、“たまきはじむ”看板前を通過。9時、国道交差点まで戻る。道路標識には和歌山124km、田辺29kmとあった。



紀伊日置駅とその周辺

9時4分、170mある、海○寺トンネル(No4)入口前を、9時10分、浜松から366km地点を通過。9時13分、110mある寺山トンネル(No5)前を。9時30分、白浜行きのバスが私を追い越して行く。9時28分、道の駅前を通過。9時36分。椿温泉まで6kmある案内板前を通過。9時44分、万歩計で761歩ある笠浦トンネル(No6)前を。山道が続く。9時57分、左手に海岸線が見えて来る。9時58分、笠浦バス停(明光バス)前を通過。10時12分、峠に到達。10時17分、No7の180mある三石トンネル前を。10時21分、浜松から361km地点通過。10時37分、366mある市江トンネル前(No8)を。このトンネル内で362.4km地点を通過。11時海岸線が前方に見えて来ると同時に民家が見えて来る。11時1分、椿の湯前を通過。11時高層ビルが見えて来る。11時9分、前方に椿駅への交差点が見えて来る。しかし、この交差点から15分と表示があったがそれより遠く感じた。



前方が椿交差点



椿駅

11時25分、やっと2番目の椿駅に到着する。それにしても、紀伊日置駅から遠かった。11時40分、国道に戻る。国道に戻った先は橋であった。かつ風光明媚な海岸線が続く。11時45分、海岸線から先程通過した椿温泉が見えて来る。12時4分、海岸線を上る。12時7分、峠に到達。12時14分、前方に白浜が見えて来る。12時20分、70mある袋トンネル前を通過。右手に微かにJR線が見えて来る。12時25分、右手の直ぐ上にJR線となり、ホットする。12時32分、急カーブの道路を歩き、JR線に沿った道路となる。12時37分、民家

が見えてくる。主婦の方に対面に紀伊富田駅までの距離を尋ねる。「橋を渡った先にあります。40分位かかりますよ」と。元気を頂く。12時41分、JR線を横切り、鉄道の右側になる。

10時45分、206ある10番目の目坂トンネル前に到達。このトンネルを括ると白浜の街並みが現れる。12時50分、左手に陸橋がある。12時59分、進むべき路で少し躊躇する。13時3分、新富田橋を渡ろうとする。しかし、この橋は高速道路への橋と分かり、小走りで引き返す。この橋から300m位先に富田橋（富田川：394歩）があり、白浜まで4kmとあった。紀伊富田駅は道路を真っ直ぐ行った先にあったが、鉄道が全く見えず、少しでも鉄道に近づこうとする。畑仕事をしていた人に紀伊富田駅への路を尋ねる。「幹線道路を真っ直ぐ行った先にあります」との回答はホットする。行き過ぎていると思ったので、5分位ロスとする。幹線道路に戻った先に紀伊富田駅（13時25分）があった。



紀伊富田駅への路



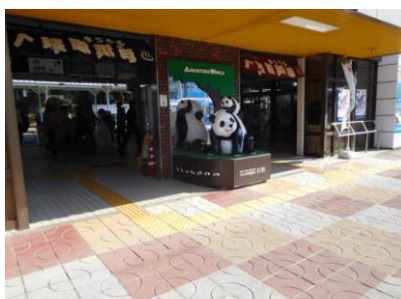
紀伊富田駅

駅前には中田仏香り堂があった、トイレを清掃している方に白浜までの距離を尋ねる。30分位で行けるとのことで更に安堵する。目標の時間（14時半）までには到着できるからである。13時43分、白浜の街並みを歩く。13時47分、堅田という地名前を通過。13時58分、八幡神社前を通過、前方にくろしおの特急車両が見えて来る。14時7分、鉄道を横切り、JR線の左側となる。階段を下りて線路に沿って歩く。14時12分、やっとのことで目標の白浜駅に到着する。駅前にはパンダの模型があった。駅舎には沢山の人で溢れてい

た。14時20分、遅い昼食（カレー）を駅前の店でとり、くろしお24号（座席は先頭車両：9号車7番席）に乗り込み自宅への行程に。



白浜駅界限 八幡神社



白浜駅

本日も予定通り有言実行でき大満足の一日であった、くろしをと新幹線の中で祝杯をあげながら自宅へ。自宅には22時15分到着。本日の営業キロは21.4km、万歩計は54,845歩だった。

第7節 まとめ

平成30年2月9日（金）～2月12日（月）までの3泊4日旅行で、新宮から白浜までの営業キロ95.2kmにある全ての駅舎に立ち寄りに成功した秘訣は次の通りであろう。このような歩き方は、約18年間の鉄道つたい歩きを通じて習得したものである。最近テレビ番組で私のような旅が放映されているのは嬉しい限りだ。ただし、行き当たりばったりの粋な旅では、人口の多い地域では成り立つが、過疎化が進行している地域では難しいのでは。特に宿探しが。

①新宮から白浜に向かったのが功を奏した。白浜から新宮に向かうコースであれば、とても95.2 kmは踏破できていないだろう。参考までに、この区間のダイヤは、一日各駅停車ペースで6~7往復である。

②泊まる宿をどこにするかがポイントになる。新宮と白浜のほぼ真ん中の串本に宿を置いたのがよかった。同じ宿の場合、重いリュックを背負わず軽装で鉄道つたい歩きができる。この界限ビジネスホテルは新宮か串本位しかない。後は温泉宿で料金が高くなるし、私のような”鉄道つたい歩き”のような旅にはマッチしない。もし、新宮に宿を取っていたら、ダイヤの関係でせいぜい50 kmくらいしか歩くことができなかつただろう。



新宮駅 紀伊勝浦駅（ラクダ岩）

③今回、紀勢本線のダイヤやレールウェイマップルなど調査の上、推敲に推敲を重ねて今回のプランを策定した。そういう意味では、最適化を図った旅でもあった。



陸の黒島・沖の黒島

④4日のうち2日間が、串本駅に向かうコースとした。すなわち、紀伊勝浦～串本、周参見～串本と。この場合、時間に追われることなく歩けるからだ。仮に串本～周参見とした場合、周参見～串本に帰る電車の心配をしなければならない。

⑤去年の天浜線の教訓を生かし、日没前に歩き終えるようにした。

⑥9カ条からなる”こだわり鉄道つたい歩き”中、「出発点は先憂後楽の考えに基づき決める」の方針でプランを策定した。



いせえび博物館（周参見駅）

今回の旅は、気楽な歩き旅とは言え、Plan→Do→Checkの大切さを痛感する旅でもあった。また、美しい日本の景観の素晴らしさや沿線の方の人情味など感じる旅でもあった。旅は実にいいものである……。次回の旅が楽しみである。